

## 第59回地盤工学研究発表会で3件の講演

1966年から続く、地盤工学会の年次大会

2024年7月23日～25日に開催された第59回地盤工学研究発表会で、当社社員による3件の講演を行いました。

講演概要は以下の通りです。

### 【一般セッション】 カテゴリー「地盤と構造物（動的問題を含む）」

|   |  |
|---|--|
| <p>トンネル施工時切羽観察記録の有効利用<br/>～三次元地盤モデルの改築設計への活用～</p> <p>小瀬川 奉久、白井 杏実</p> | <p>廃線トンネル改築設計のため、30m程度の離隔で隣接する供用中のトンネル施工時の切羽観察記録から三次元地盤モデルを作成し、地山分類・支保パターンを設定した事例について報告した。</p> |
|---|--|

### 【ディスカッションセッション】 カテゴリー「住宅地盤の防災問題はなぜ難解なのか？」

|  |  |
|--|--|
| <p>住まい手の居住の安全と取引を<br/>どのように考えるのか</p> <p>本間 勝</p>                         | <p>昨今の大地震の頻発や気象の極端現象を前に、住まい手の居住の安全と取引をどのように考えるのかを再考すべく、盛土規制法に基づく区域指定の検討と各都市のグラウンドビジョンとの関係性、今後提供できる制度システム構築へと繋げる考え方の整理について検討し、会場において議論を行った。</p>                     |
| <p>地盤品質判定士の最近の動向と<br/>今後の展開に関する私見</p> <p>小田部 雄二<br/>(地盤品質判定士協議会へ出向中)</p> | <p>地盤品質判定士（以下、判定士）資格制度が創設されてから11年、国土交通省登録資格の新分野である宅地防災に唯一認定され、同省推進の「宅地耐震化推進事業」で各地方公共団体との連携が進むなど、判定士の活躍の場が広がりを見せている中、最近の判定士関連活動の動向と今後の展開に関する私見を述べ、会場において議論を行った。</p> |

以上